

『贈る言葉』

お久しぶりの更新でどーもすいませーん。
 なんだかずっと忙しくて目がまわっております。
 でもあんまり目がまわるもんだから、昨日おと
 といと2日間がっちり休ませてもらったら、またす
 ぐ元気になっちゃいました。あは。
 一体何がそんなに忙しいんだい、と聞かれれば、
 そりゃあなた、皆さんお待ちかねの坂本真綾
 ニューアルバムをまさに今制作中なのでございま
 すよ。プラス、この夏出演のミュージカルの稽古
 がすでに始まっているので、日々稽古・レコー
 ディング・稽古・ラジオ・レコーディング・稽古・稽
 古・作詞とまあこんな具合です。そうこうしている間にも私は23才の誕生日を迎え、ニューシ
 ングル「tune the rainbow」も発売になり、桜は散って青葉となりました。皆さんの中にはこの春か
 ら新しい生活が始まったという方も多いでしょう。あなたはこの春、何を卒業しましたか？



中学を卒業する日、担任の先生がこんなことを言いました。
 「君たちは、ここで素晴らしい時間を過ごした。だけど、忘れなければいけないこともある。変
 わっていかなくちゃいけないこともある。時間は毎日流れていく。今を大切にすあまり、その
 先の可能性を潰してはいけない。変化することを怖がってはいけない。」
 そのときは、先生の言っていることがよくわからなかった。まさに今大好きな仲間との別れを惜
 しみながら、いつまでも変わったりしないと誓いあっている私たちとは、まったく逆の言葉だった
 のだから。
 今でも私の中にその言葉がとても強く残っています。そして今なら、その意味を少なからず理解
 できるようになったと思っています。
 私たちは変わり続ける。出会いによって、別れによって、いろんな出来事によって日々変わっ
 ていく。それが自然なこと。だけど、「変わる」ことは「失う」ことじゃない。すべてはシワになって
 刻まれていく。
 なぜだか「変わる」ということに妙な罪悪感を持ってしまう気がしませんか。相手の歴史を知ら
 ないくせに「あの人は変わった」なんて簡単に口にしたりしがちじゃありませんか。本当に変わっ
 たと言えるのは、根っこごとどこかへ行ってしまったときだけ。でもそれって、滅多に無いことな
 んじゃないかと思う。

そのことを私が実感したのは、つい先日中学時代の同級生の結婚パーティーで久々に昔のとも
 だちと再会したときでした。それぞれ大人になって色んな道に進んでいて、外見こそ多少変わ
 ってはいたものの、喋ってみると「なーんだ、全然変わってないなあ〜」と思ったんだよね。そ
 れでいて、あの頃以上にお互いを認め合う気持ちが増しているように感じられて、私たちがみ
 んな別々の場所で過ごしてきた時間がきつと有意義なものだったんだろうと想像できた。根っこ
 をしっかり持ち続けながら、ちゃんと成長している植物みたい。服を変えても住む所を変えて
 も、根っこは誰にも触れない。その人が持つてくる独特の色を消すことはできない。だからこそ、
 怖がらなくていいんだと思う。何でも信じる通り、思い切ってやっちゃえばいいんでないの。い
 つでも自分の根っこに帰って来れるはずなんだから。

今までいくつもの卒業を経験してきたけど、そのひとつひとつの場所に私にとって本当に大切
 な生涯の友がいます。お互いに別々の道へ進んでからも、一緒に歩いていけるような仲間が。
 私はそんな彼らが今に留まらず変化し続けることを望みます。だって私たち若いんだし!光や水
 をいっぱい吸収して、葉っぱはどんどん伸び続け、根っこはどんどん太くなる。若い衆、これか
 ら世界を支えるのは私たちだけ。

* maaya *

... THE ID